

富山県一般公衆浴場運営者の運営動機と施設の社会的価値の関連
その2：運営動機による類型化と類型別社会的価値

正会員 ○長竹凜*¹
準会員 石原亜実*²
正会員 藪谷祐介*³
正会員 重山隼人*⁴

銭湯 運営者意識 質的研究
地域コミュニティ 社会資本 地域施設

1. 研究の背景と目的

前稿（その1）では、富山県の15の一般公衆浴場（以下、銭湯）の現状の整理と把握を行い、施設/運営者の特性には施設ごとに傾向があることが示唆された。本稿では、対象の銭湯に実施したヒアリング調査の結果をもとに、①銭湯の運営者の運営動機を明らかにするとともに、②運営動機ごとに運営者・利用者にどのような行動が生まれ、その結果として銭湯にどのような社会的価値（以下、価値）や役割が生じているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

選定した銭湯を対象に半構造化形式でヒアリング調査を行った。ヒアリング項目は表1に示す。ヒアリング調査の分析は定性的（質的）コーディングを行った。インタビューから得た音声データから、逐語録を作成し、そのデータからコードを作成した。さらに作成したコードの関係性を比較検討し、質的に類似したコードをサブカテゴリにまとめた。さらに類似したサブカテゴリをまとめ、要約し抽象化したカテゴリを形成した。それらから得られた運営動機やモチベーションなど、【運営の継続動機】になりうるものや利用者や施設運営者の行動/取り組みから創出していると考えられる【価値】を抽出した。得られた継続動機を整理し、その傾向を見るためにクラスター分析を用いて類型化し、類型ごとに考察を行った。

3. ヒアリング調査結果・考察

3-1. 運営動機と価値の整理

井上ら⁶⁾が銭湯運営者の継続要因として明らかにしていた「経済的理由」「地域貢献」「社会的役割」の他、新たに利用者との関わりや自己実現、自身のライフシフトの変化に伴うもの、銭湯/文化の継承、家業の存続のためといった継続要因を明らかにした。

運営動機と施設で生まれている価値とその創出要因との関係の特徴を把握するために各対象者の運営動機における創出数を得点化し、それを標準化したデータを用いて、クラスター分析(ward法, 平方ユークリッド距離)を行った。その結果、4つの類型が抽出された。運営動機の類型ごとに関連が見られた価値や役割を図1に整理した。

3-2. 対象者の類型化

運営動機ごとの施設や運営者の特徴を明らかにするために類型化を行った。

(1) 類型1:利用者関係重視型（3事例）

利用者とのコミュニケーションや関わりが、運営の主たる動機となっている。このタイプの運営者は全て70代以上の高齢者であり、利用者との関係が経営の継続に大きな影響を与えていると考えられる。また、利用者から運営者への支援が生まれ、日常的な交流を通じて、銭湯が地域社会における新たな関係構築の場として機能している。さらに、利用者同士が自主的に高齢者の送迎やサポートを行うなど、地域住民の助け合いの場としての役割も果たしている。このような価値は、運営者と利用者の長年にわたる信頼関係の構築によって生まれていると考えられる。

(2) 類型2:他律要因型（4事例）

家族経営の施設が中心で、家業を受け継ぐことが必然的な選択肢として認識される傾向がある。「生活のため」「借金の返済」という経済的かつ消極的な動機がみられる一方で、経営に関与する中で、銭湯の魅力や可能性に気づき、積極的に取り組む姿勢に変わる事例も確認された。利用者との関わりや自己実現といった前向きな動機も持ち合わせていることで、広いスペースや滞在できる空間の活用やイベントやグッズ作成などを多く行っており、結果として多世代の居場所やコミュニケーションの場としての機能が強くなっていると考えられる。

(3) 類型3:地域貢献・銭湯文化継承型（2事例）

地域貢献や文化継承に対する強い意識を持ち、次世代への文化継承を視野に入れた地域貢献に対する意識がみ

表1 ヒアリング調査項目

期間	2024年8月～11月
方法	現地に訪問し、半構造化インタビュー形式での1時間前後の聞き取り
項目	対象者の属性/運営・経営の経緯/モチベーション/独自の活動や取り組み、その背景/銭湯と地域との関わり/継業について・その理由/地域社会・文化・衛生等に関する意識
対象	富山県公衆浴場組合加盟施設から地域/運営体制などの特性に応じて15軒選定

Relationship between the Management Motivations of Public Bath Operators in Toyama Prefecture and the Social Value of the Facilities
Part 2: Categorization by Management Motive and Social Value by Type

NAGATAKE Rin, ISHIHARA Ami,
YABUTANI Yusuke, SHIGEYAMA Hayato

られた。若い世代が中心であることから、自己実現の一環として銭湯経営を捉えていることが考えられる。また、運動機能の維持や健康支援、子育て支援などの価値が確認でき、銭湯が持つ福祉的な価値や役割を重要視し、それらが銭湯文化継承の意識に繋がっていると考えられる。

(4) 類型 4: 内発的動機・経済的要因型 (6 事例)

生計のためや借金、補助金の存在があげられる一方、好きなことを活かせることや実生活への好影響が動機につながっていることがわかった。価値として、コミュニケーションに関連するものの他、利用客への生活支援活動が多く見られた。親族外の継業や兼業をしながら運営をしている事例が多く見られ、これまでの形とは異なる新たな運営スタイルを試みていることが考えられる。

4. まとめ 本編では、ヒアリング調査の結果をもとに、銭湯の運営者の運営動機とその違いによる施設の価値や

役割を明らかにした。その結果、銭湯運営者の運営動機について、これまで明らかにされていた継続要因の他、利用者との関わりや運営者自身の自己実現などの運営にあたっての継続動機となりうるものが確認された。また、運営動機は運営者の年齢や継業形態により違いが見られ、それに伴い、運営動機と施設で生まれている価値の関連にも傾向があることがわかった。また、銭湯は異なる運営動機を持ちながらも、いずれも地域社会にとって不可欠な価値を提供している。動機に加え、利用者層や設備に応じて、施設が果たす役割が多様化しており、これまで提唱されてきた地縁や共通のテーマとは異なるコミュニティの存在が示唆された。

参考文献

1) 井上聖隆・安武敦子「長崎市内における銭湯の実態 ― 内部空間の現状評価と経営状況について ―」, 長崎大学大学院工学研究科研究報告, 第 53 巻 101 号, pp8-14, 2023 年 7 月 13)

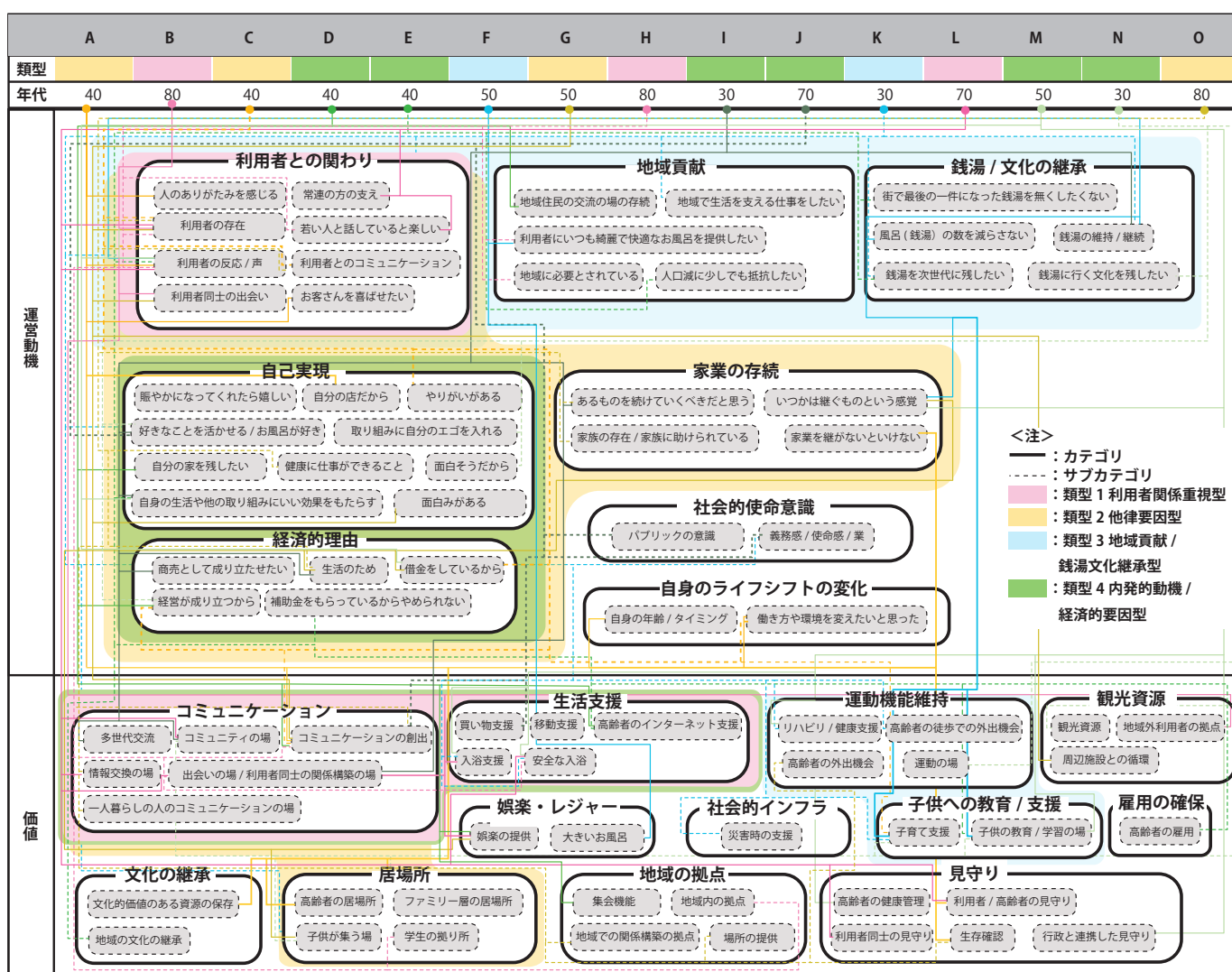


図 1 運営動機と価値の整理

*1 クジラ

*2 富山大学芸術文化学部 学部生

*3 富山大学学術研究部芸術文化学系 講師

*4 フリーランス

*1 KUJIRA Co., Ltd.*2 Undergraduate, School of Art and Design, University of Toyama*3 Junior Professor, Faculty of Art and Design, University of Toyama *4 Freelance